

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学部 第2類 3年

参加プログラム: IARU GSP 派遣先大学: Yale University

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界: 商社・銀行) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

コネチカット州ニューヘブーンにあるイェール大学は、1701年に創立されたアメリカでも屈指の名門大学です。夏期休暇を利用して大学生や高校生のためのサマープログラムが数多く行われています。

参加した動機

アメリカのトップスクールでの生活を体験できることが一番の魅力でした。Friends of Todai, Inc.などから奨学金を受給できる機会が多かったことも参加の決め手となりました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

申請書類作成には思いの外時間がかかりました。試験日程も踏まえ計画的に進めるとよいでしょう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F-1 ビザの申請から発行まで、3週間~1ヶ月ほどかかりました。オンライン申請フォームは記入事項が多く、時間がかかります。アメリカ大使館での面談は必須です。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

イェール開講プログラムの参加者は自動的に学内の保険に加入する仕組みです。これにより大学の保健センターを利用できます。常備薬を持って行くことを除けば事前の準備は必要ありません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカードに付帯する保険と、生協経由で申し込める海外旅行傷害保険に加入しました。傷病治療費用・救済費用の補償は、3000万円以上あることが望ましいとされているようです。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

(以下、法学部)昨年度参加された先輩は単位振替を許可されています。教務課へ留学許可申請書ほか何枚かの書類を提出します。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL iBT 102/120

私は12月の留学説明会でこのプログラムの存在を知り、大急ぎでTOEFLの準備をしました。理想的には何回か受験して慣れしておくといいです。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

大学周辺で日用品はほぼ手に入ります。出発前は心配になりますが、荷物はわりと軽くて済みます。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

●Sustainability and Institutions

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

前半は座学、後半は実践を中心に組み立てられた講義です。予習課題は授業あたり100ページを超えることが多く、もし課題図書をもつて入手できるなら日本で目を通しておくのと楽です。成績評価は平常点に加え、コンサルティングに似たIdeas Forum、中間試験(持ち帰り)、最終課題(プレゼン+レポート)により行われます。中間試験の優秀答案は緻密な論理に明快な構成を持ち併せ、エッセー執筆を重視するオックスブリッジ式教育の強みを見せつけられたよう

でした。

④学習・研究面でのアドバイス

同時期に開講された他のプログラムの中では、最も時間的余裕に恵まれたコースです。特に最終課題はグループワークが奏功し早々に目処をつけることができました。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

英語圏にない大学の学生でも、日本人学生より遥かに語学能力が高いです。しかし、英語ができなくて本当に困る機会はほとんどありません。少しずつ慣れていけばよいと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮には GSP 生のほか ELI、YSS といったサマープログラムの学生が泊まっています。寮付きの食堂や図書館で毎日顔を合わせるので、沢山のひとと仲良くなれます。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候: 部屋にエアコンはありません。地域一帯が熱波に見舞われ、扇風機のお陰で辛うじてしのげる暑さの時期もありました。7 月下旬には急に寒くなり体調を崩す人が続出しました。けれど、全体としては日本の夏より快適です。

大学周辺: イェール大学はニューヘブンの町と一体化してその中心をなしています。

交通機関: 生活圏はほぼ徒歩で移動できます。大学の中を無料のシャトルバスが運行しています。

食事: 寮食堂で朝昼晩食べられます。ハンバーガー店が多いのがニューヘブンの特色です。

お金: 現金、トラベラーズチェック、クレジットカードを使いました。洗濯にはクレジットカードが必要です。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ニューヘブンの治安はあまり良くないです。夜一人で外出するのは避けましょう。厳重な寮のセキュリティをはじめ、学生の安全を図る仕組みは充実しています。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空運賃: 21万円ほど

授業料と滞在費(食費込み): 65万円ほど 外食をどれくらいするかで変動します。

教科書代: 教科書の参照部分はほとんどネットに上がっています。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

イェール大学と Banco Santander(スペインの銀行)よりそれぞれ授業料と滞在費の半額を支給していただきました:
支給額合計\$3,226

JASSO 奨学金: 16万円

Friends of Today, Inc.からは\$3,000をいただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

イェール側が毎週のように企画を用意してくれます。アメリカ版ゲームセンターやボストン旅行、映画鑑賞が印象に残っています。法学部は試験が9月にあるので、空いた時間で試験対策もしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

サマープログラムは参加者のほとんどが海外からの留学生なので、サポートは充実しています。寮ごとにイエールの学生がカウンセラーとして滞在しており、イベント告知などをしてくれました。教授も英語が母語でない(ESL)学生へ細やかな気配りをしてくれ、学習面でも困ることはありませんでした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

理想的な学習環境が整っています。私は図書館をいくつか見て回りましたが、どれも個性的で素敵な場所でした。Sterling Memorial Library の書庫は迷宮のようで、一度入ってみることをおすすめします。



左: Sterling Memorial Library 外観 / 右: 閲覧室

食堂は寮に付属しています。私が利用していた Morse College の食堂はイエールでも一番美味しい料理を出すとの評判で、アジア料理を含む食事を楽しむことができました。



左: 食堂のようす / 右: 寮の図書館

PC 環境: 無料の Wi-Fi がキャンパス一帯をカバーしています。プリンタ、スキャナ等は図書館にあります。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

世界 10 大学の学生と共に過ごす機会は、他ではまず得られないと思います。私にとって初めての留学・一人暮らしであり、様々な面で成長できました。海外の学生と話していて一番伝わってきたのは、彼らの自律心の強さです。自分の進路を考える上でも決定的な影響をもったプログラムだったと思います。

②参加後の予定

冬学期からは就職活動に集中する予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

将来長期の留学に出ることを考えている人はもちろん、そうでない人も多くを得ることができます。留学前に目標を立てておくと充実した時間を過ごす助けとなるでしょう。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Yale Summer Session の HP に基本情報が載っています。GSP 生用の個別メールも丁寧に読んでください。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学部 4年

参加プログラム: IARU GSP YAL1 派遣先大学: イェール大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

イェール大学はアメリカ合衆国東海岸北部、コネチカット州のニューヘイヴンにある大学であり、アイビーリーグの一角を占める私立大学である。ハーバード大学とライバル関係にあるようである。タイムズの世界大学ランキングでは、2012-2013では11位となっている。組織はYale College(学部生に相当)、Graduate School of Arts and Sciences、professional schools(各専門分野別の大学院)に大別される。全学生数は11250人とされる。その他にも複数の図書館、美術館、プリティッシュアートセンター等の各種施設を備えている。

参加した動機

将来海外で学位取得や資格取得を考えているため、未知の分野の勉強を英語ですることがどうということなのか、ネイティブの学生に交じって教育を受けても学習についていけるのか、質問等を通して授業に積極的に関与していくことができるのかといったことを体感し、将来の留学につなげたいと考えた。また、「持続可能性」という概念が環境問題の枠を超えて発展している欧米で、最先端の知見に触れてみたかったという好奇心も動機の一つである。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

申し込み段階で提出する書類が多く、小論文のようなものも英語で複数出す必要がある。受け入れ許可の連絡が来た後は、手続き自体はそこまで大変なものではない。ただ、IARUの公式サイト、YALEのSummer Session公式サイトは共にGSPに関する情報が不十分であることがあるため、早い時期から疑問点はYALE側担当者に直接メールで問い合わせた方がよい。質問すれば非常に親切に対応してくれる。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

アメリカ合衆国のF1ビザという学生用ビザの取得が必要となる。申請先はアメリカ大使館だが、必要な手続きを事前に大使館ホームページで済ませる必要がある。この必要事項の記入等にかかなりの時間がかかるので注意が必要。これが済むと大使館を訪れる日時を指定して予約をすることになる。ただし、予約されているとはいえ朝はアメリカ大使館前にビザ申請者の長蛇の列ができるため、訪れるなら午後をお勧めする。大使館では順番待ちの時間が非常に長い、書類提出からビザ発行までは、あまり時間はかからない。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

イェール大学はアメリカ合衆国の東海岸北部にあるということで、風土病のような心配は無い。健康調査票のようなものをイェール大学側に提出する必要があるが、特別な予防接種・健康診断書の類は必要でない。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

イェール大学側で保険を用意してくれるため、滞在中に関してはその保険でカバーできる。ただ、行き帰りの道中が保険適用外となってしまうため、これをカバーする目的で、別に旅行会社で留学生用の保険に加入した。加入したのはHISで申し込んだ、HS損害保険だったと記憶している。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

法学部に対しては、事前に留学許可申請書と留学目的について述べたレポート、事後に留学先での履修科目の概要、留学先大学の便覧、単位認定申請書を提出した。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

留学要件だったため1月にTOFLEを受験したが、それ以外の準備は格別行っていない。出発前の語学レベルは、TOEIC970、TOFLE100。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

7月はかなり暑くなる上、建物・スクールバスともに冷房がついていないことがしばしばあるため、扇子は必携。他国から来た留学生にもかなりありがたがってもらえる。また、言うまでもないかもしれないが、パソコンは絶対に必要で、無いと授業・課題提出双方にかなりの支障をきたす。ただ、ほとんどの物は現地で調達できる上、イェールグッズを買う口実にもできるから、持参品にそこまで気をつける必要はないと考えている。なお、女性は浴衣を着ると圧倒的な人気になれるため、持参することを強くおすすめする。男性は襟付きの服、特にワイシャツや半袖のワイシャツを複数

持っている、レストランやバー等に行く際に便利である。

出発前にやっておくべきことについては、余力があるなら出発前にテキストを読んでおく、現地でいろいろなイベントや遊びに参加することができるので、時間を有効に使えるかもしれない。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

●Sustainability and Institutions

② プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

大学におけるサステナビリティをいかに達成するか、がテーマのプログラムである。講義の内容は、サステナビリティや自然界のシステムに関する理論的考察に始まり、変革をもたらすためのマネジメント術に関する授業を経て、最後に具体的な取り組みの例が紹介されていく、という構成である。授業は通常の講義スタイルだが、中盤以降はゲストスピーカーが YALE におけるサステナビリティ達成に向けた取り組みを紹介したり、特定の分野におけるサステナビリティに向けた試みを紹介したりするスタイルとなる。また、授業中に生徒がグループを組んで発表を行う機会が多めに設けられている。予習として、毎回授業前に相当量の文献を読むことが要求され、授業で軽く紹介はするものの基本的には課題文献は読んできている前提で講義が進んでいった。復習については、プログラム後半に Midterm としてレポート提出があり、そこで文献に基づきながら設問に答えることが要求され、これが復習の機会とされている。また、プログラムの最後に最終論文(A4 で 18 枚)を提出する。

④学習・研究面でのアドバイス

僕は読むのが遅いため現地ではよく図書室に籠って課題文献を読んでいたが、余力があるならあらかじめ、日本で参考文献を一部読んでおいたほうが良いように思う。現地ではできない活動は意外に多く、それらに参加できる機会が増えるからである。また、レポートでいい成績を取るためには、かなり細かく註をつけて参考文献を明示していく必要がある。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

英語で行う大学の講義というスタンスであり、また英語のネイティブスピーカーの学生が4割程度を占めていたこともあり、全般に生徒も教師も喋るスピードが非常に早かった。また Julie Newman 教授は抽象的な単語を多用するため、聞き取るのにも内容を理解するのにも苦勞した。僕も含めて、ノンネイティブの生徒は授業を録音していた人が多かったようだ。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

宿泊先は寮(residential collegeと呼ばれている)で、事前には2人部屋だと説明を受けていたが、実際は一人部屋が用意されていた。家賃・光熱費・食堂での食費は全て学費に含まれていた。一人部屋にしては大きな部屋だった上、勉強机、電気スタンドも備え付けられていたほか、ウォークインクローゼット、ベッド、タンス二つが備え付けられていた。寮もイェール大学の中では最も新しいもので、清潔で快適だったが、冷房は整備されていなかった。そのため、暑い日には図書館がコモンルームで勉強していた。また、古いヨーロッパ的な寮と比べると建物が味気なく感じたが、Summer Session で使われる寮は毎年変わるようで、次年度は期待できるかもしれない。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は全般に乾燥・冷涼だが、7月には非常に暑かった。また、気温は低くとも直射日光が非常に強い。晴天が多かった印象が強いが、強い夕立がしばしばあったことも記憶している。大学は New Haven の街と一体化しており、街中のあちこちに大学の建物が点在していて、いわゆる「キャンパス」という仕切られた空間は存在しない。New Haven は典型的な地方都市という感じで、比較的小さく、日中は非常に静かな町である。もともと、伝聞になるが夜中にはかなり治安が悪くなり、別のプログラムに参加していた日本人が滞在中の深夜に強盗の被害に遭ったとも聞いている。町中の交通機関としてはもっぱらバスが利用されており、また YALE の生徒であれば無料で利用できるシャトルバスもあるが、本数の少なさと停車地点の分かりにくさから Summer Student の利用は少なかったようだ。ニューヨーク・ボストン両大都市とは電車・バスの両方で直結しており、所要時間はどちらも二時間程度である。食事は基本的に寮の食堂で取っていたが、町中で食事ができる場所はかなり多かった。おすすめは YALE ブックストアのすぐ近くにある"EDUCATED BURGER"。お金に関しては、現金は 300 ドルだけ持参し、残りはクレジットカード払いで済ませた。ただ、同級生と旅行などとすると清算に現金が必要となり、また意外とクレジットカードの使い方が分からない場面(駅の切符の自動販売機で、"zip code"は入力する必要がないなど、場合によってトリッキーな場合がある)が多く、現金はもう少し多めに、500ドルくらい持っていくと便利だと思われる。ただ、全般にアメリカでは5ドル以上の買い物にはクレジットカードかデビットカードを使うのが普通なので、一ヶ月半程度の滞在ならば現金をそこまで用意する必要はない。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は先述した通り、日中はかなりいいが、深夜には悪くなるようである。また、医療機関は Yale Healthcare Center という大きな総合病院があり、学生で YALE の保険に加入しているならば無料で診察してもらえるほか、ここに入っていない診療科については町医者を紹介してもらえる。僕は一度原因不明の高熱と頭痛でお世話になったが、処方された薬もよく効き、いい印象を持っている。健康管理で気をつけた点は、全体的に食事がかなり油っぽく、量も多くなり

がち(皿や肉の一片が大きい)ため)なので、食堂では必ず大皿の半分はサラダを盛るようにしていた。また、毎日何らかの球技をする集まりがあったので、できるだけ参加するようにしていた。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費(往復)20万円

授業料 70万円

教科書代 7千円(殆どの書籍はネット上で pdf ファイルが無料で手に入る)

家賃 0円

食費 3万円ほど

交通費 3万円ほど

娯楽費 3万円ほど

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

サンタデル銀行:50万円。IARUGSP 全体のスポンサーを務めており、大学を通して奨学金に応募することができた。

JASSO:総額16万円。東京大学を通して申し込んだ。奨学金の案内は本部国際交流課から送付されてくる。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

前述の通り、毎日何らかの球技を一時間ほど集まってやるイベントがあり、それには週に2回を目安に参加していた。週末は同じプログラムの学生とともに、遠くの街へ旅行する等していた。また、Summer Session の娯楽プログラムを運営している YALE の学生組織のようなものがあり、そこが毎週末、何らかのイベントを企画していたため、それにも時々参加していた。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

論文執筆のチューターサービスを学生組織が行っていたようだが、有料だったため利用しなかった。それ以外では、YALE の本科の学生が counselor として各 stairway に配置されており、彼らを通じて学生組織主催のイベント等の通知を受け取ることができた他、プログラム開始直後には生活上の注意や緊急連絡先等も教えてもらった。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館が寮内外に数多くあり、また開いている時間も違うため、遅くとも深夜 12 時までしか使えなかったものの、重宝していた。食堂も寮ごとにあり、生徒は無料で食べることができた。PC は寮の外の大きな図書館でしか使うことができず、やはり授業の資料を入手するにつけても、課題を提出するにつけても、個人の PC は必携である。スポーツ施設としては大きなジムが寮のすぐ外にあり、地下1階、地上6階建てで現在世界最大のものだという。学生は無料で使うことができ、設備もかなり充実していたようである。また、スカッシュやバスケットボール用のコートや、スイミングプールも複数備えているようだった。大学の施設内であれば複数の Wi-Fi ネットワークが利用できる状態だったが、電波が弱いらしくしばしば切断され、また時折接続不能になることがあった。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

世界中から参加した優秀な学生たちとともに、全員で未知の領域の勉強をするという経験は、非常に有意義だったと考えている。特に、新しい概念を英語で説明され、それを把握し、試験やレポートでそれを表現できたということは大変貴重な経験だったし、またそれが達成できたことがいい意味で自信につながっていると思う。

様々な背景を持つ学生たちと交流を深められるのも大きな魅力だと考えている。専門分野の話をしないまでも、考え方やちょっとした概念の差、日本人が外国からどのように見られているか等を知ることができたのは、自分の常識を相対化する良い契機になった。

② 参加後の予定

東京大学法科大学院受験を予定している。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

もし語学の能力等の点で躊躇っている人がいれば、それに構わずに参加することをお勧めしたい。帰国子女じゃなくても、意外と、なんとかなります。

語学留学でもなく、かといって長期的な留学をするのが何らかの事情や理由で難しい人にとっては、ある分野の入門的な講義を短い期間で手軽に、しかも現職のイェール大学の教授から受けられるこのプログラムは、強くおすすめできるものだと思う。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

・IARU 公式 HP

・Yale Summer session HP

・指定された教科書類

・HIS HP(格安航空券の予約に利用)

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学部 3年

参加プログラム: 2013 IARU Global Summer Program 派遣先大学: Yale University

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 ○2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

Yale University

アメリカ東海岸 New Haven にある、Ivy League の名門大学です。

参加した動機

将来の進学も視野に入れ、学部時代に海外経験を積んでおきたいと考えていたところ、夏期留学説明会でこのプログラムを知りました。世界の名門大学で、かつ世界中からの学生と交流しながら学べる点に惹かれ、参加しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

Yale から受け入れ通知を受取った後オンラインでの手続きがあるのですが、同時期に実施される他のサマープログラムに比べ、GSP はシステム上不安定な部分がある印象を受けました。私はその手続きがうまくいかず入学許可証 I-20 を発行してもらうのに手間取り、ビザ発行がぎりぎりになってしまいました。

Yale 側の担当者の方にメールで相談するなど、連絡を密にとることが大切です。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

1ヶ月半という短期のプログラムでしたが、F-1 ビザという就学ビザの取得が求められました。

DS-160 というオンラインでの申請書提出に加え、大学側からの入学許可証 I-20・銀行の残高証明・高校時代の成績証明など必要書類が多く、発行までに日数がかかるものもあるため、すべてを揃えるのにはかなり時間がかかりました。プログラムへの参加が決まり次第、自分が提出しなければならない書類を一度確認し、早めに手配することをおすすめします。

書類が揃い次第予約を取り、アメリカ大使館で面接を受けます。夏休みに向けたビザは面接が混雑しているようで予約が取りづらいこともあるので、確実にビザがとれるよう十分余裕をもって準備しましょう。

目安としては書類準備に2週間ほど、面接予約に1週間ほど、面接後ビザが送られてくるまでに3日ほどかかりました。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

5~6月に東大保健センターで行われる学生定期健康診断を受けました。

その他特別な予防接種などは行いませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカード付帯のもの

損保ジャパン 新・海外旅行保険【off!】(生協トラベルセンターで資料をもらいました)

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

法学部の試験期間は9月に入ってからだったため、試験に関しては特別な手続はありませんでした。

ゼミや他学部聴講の科目については教員に事情を話し、代替措置をお願いするなどしました。

その他法学部教務の方から指示を受け、留学許可願と留学先で取得した単位の認定手続などを行いました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

昨年までは TOEIC のスコアでも応募可能だったようですが、今年から TOEFL のスコアのみに変更されたようです。

私はこのプログラムの参加まで TOEFL を受けたことがなかったため、12月のプログラム説明会后1月に慌てて受けました。目標スコアが一度でとれるとは限らないし、テストを受けてからスコアが出るまでにも数週間かかるので、参加を考え始めた時点で一度受けておくのがよいと思います。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本食や日本文化を感じさせるものを多少持って行くと、便利であると同時に友だちとの会話のきっかけにもなります。味噌汁・扇子・浴衣・折り紙など。

出発前にはできるだけ英語に触れて、聞く・話すことを意識して練習しておきましょう。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

●Sustainability and Institutions

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

授業は週2回・各3~4時間ほど。プログラム期間の前半は理論的な面が中心で教員のプレゼンテーションとそれに関するディスカッションなど、後半はYaleにおける実践面に焦点を当て各分野の担当者の方から実際のお話を伺ったり様々な施設に見学に行ったりしました。

毎回 reading が100~数百ページ課題として出されていた他、10分程度のプレゼンテーションやペーパーの提出も数回ずつ課されました。最終課題はYaleや自分の大学のsustainabilityに関する問題提起とそれについての考察・解決策の提示を10分のプレゼンテーションと20ページほどのレポートの形でまとめるというものでした。

④学習・研究面でのアドバイス

滞在先では日々やるべきことが多いので、教科書や課題図書・論文は事前に入手し日本にいるうちから出来るだけ読んでおきましょう。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

このコースでは英語が第一言語でない人とも多く接することになります。それぞれに発音の癖などがあり、慣れるまでは聞き取りにくく感じることもありました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Yaleに12ある寮のうち、GSPの学生はEzra Stilesという寮に滞在しました。年によるようですが、今年は全員一人部屋でした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候:今年のNew Havenは7月が歴史的な猛暑で連日35度以上となりましたが、基本的には日本より涼しいです。ただ寮の部屋には冷房がないため夜は寝苦しかったです。また朝晩はにわか雨が降ることも多かったです。

大学周辺の様子:街自体がYaleの大学町といった雰囲気なので、大学関係の施設が街中にあります。その他飲食店は多く、New Haven Greenと呼ばれる大きな公園などもあります。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大学周辺にはあまり治安の良くない地域があると聞いていましたが、特にそれを意識させるようなことは起こりませんでした。夜間に散歩できないことが一番だと思います。

私自身は幸いにも利用せずに済みましたが、医療機関としては大学のhealth centerがあり、大学の保険に入っていればかかることができます。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃:約21万円

授業料:1650ドル(Yaleによる半額免除後)

寮費・食費:1557ドル(Banko Santanderによる半額免除後)

教科書代:約50ドル

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

奨学金支給団体:JASSO(日本学生支援機構)

金額:16万円(月額8万円×2月分)

奨学金支給団体:Santander

金額:156,400円

どちらも東大を通じた申請で支給していただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

寮の目の前に大学のジムがあったり、寮の庭で平日夕方にスポーツ会が開かれたりして運動の機会はたくさんありました。

New Havenの近郊で参加したいボランティア活動があったのですが、夏休み期間は休止中とのことで参加できませんでした。事前によく確認していきましょう。

週末は毎回Yaleの学生スタッフが様々なアクティビティへのtripを企画してくれた他、仲よくなった友人とボストンやニューヨークなど周辺都市へも旅行に行っていました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

派遣決定からプログラム終了後まで、Yale側のGSP担当の方が丁寧にサポートしてくださいました。

また現地では参加コースごとにYaleの学生が1人カウンセラーとしてついてくださり、寮生活や学習面での質問に対

応してくれたり、手続や行事の情報を提供してくれました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

大学の施設はサマー生でも基本的にすべて利用できます。

図書館は自習室や PC 設備の充実した Sterling/Bass Library の他、各寮にも夜間に使える図書室があり、学習環境はとても良かったです。その他ロースクールの図書館なども利用しました。

スポーツ施設としては寮の目の前に大きなジムがあり、ランニング・ウエイトトレーニング・スカッシュ・バスケットボール・水泳など設備が整っていました。ジムから遠い寮だと寮内にもトレーニングルームがあるようです。

食堂は基本的に各寮にあります。私たちの滞在した寮の食堂は夏期期間中閉鎖されていたため、すぐ隣の寮の食堂を利用していました。3食ビュッフェ方式です。

Yale の敷地内には wifi が飛んでおり教室・寮などで学生は自由に利用できますが、場所や時間帯によっては不安定になることもあるようでした。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

②参加後の予定

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

私は帰国子女でもなく寮生活も初めてで、実際にアメリカに着くまでは不安なことも多かったのですが、プログラムが始まると、そんな不安は忘れてしまうくらい充実した毎日を送ることができました。

世界中から集まる学生と生活を共にする中で交友を深め、また普段とは違う学問分野・学習スタイルでの授業を経験することで、新たな価値観や考え方にも気付かされましたし、

日本を離れ、普段とは違う視点から自分を見つめ直すことで、将来の方向性について考える良い機会にもなりました。

今後はこの経験を活かして、大学院段階などでより長期の留学もできたらと考えています。

今後参加を考えている方には、思い切って応募することをぜひおすすめしたいと思います。試験や費用などの制約もあるかもしれませんが、

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

IARU GSP <http://www.iaruni.org/gsp/courses-2013/yal1>

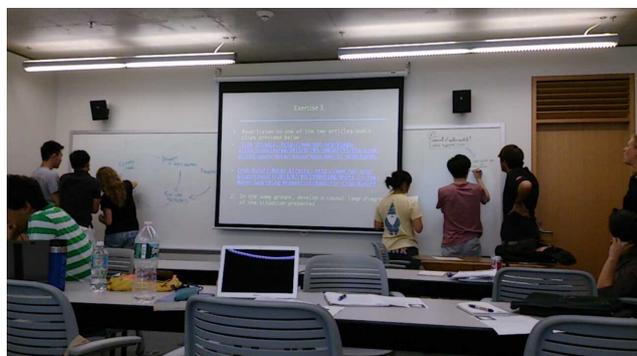
Yale Summer Session <http://summer.yale.edu/>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

・寮の部屋



・クラスの様子



・farewell dinner にてコース修了証をもらって

